

腎臓内科

【スタッフ】

坂井 尚二

【概要】

スタッフは令和3年7月より常勤医1名体制となり、腎疾患や透析療法を中心とした専門内科として診療活動を行っています。

また、第二種感染症指定医療機関として、透析が必要な新型コロナウイルス感染症患者さまの血液透析を感染症病棟の個室や透析センターの個室で対応しました。

糖尿病をはじめ、生活習慣による疾患の増加、超高齢社会を反映して、高齢者の慢性腎不全と透析導入が特に増加しています。そのため、福祉介護支援の重要性が増し、多職種で地域包括ケアに対応しています。特に血液透析では、福祉介護スタッフによる通院援助など、地域で医療を看る体制づくりを行っています。

実際の診療の場では、看護師、薬剤師、臨床工学技士、管理栄養士などのコメディカルとの協力を密にして高品質な治療の提供に努め、患者満足度の向上をはかっています。

日常診療の他に教育面では、研究会・学会での発表をコメディカルと共に行い、研修医の指導にも力を注いでいます。

【診療】

外来は常勤医1名と非常勤医2名で週3日（火曜日午前・午後、水・木曜日午前）行っています。

透析センターは、32床を月・水・金曜日に午前・午後の2クール、火・木・土曜日は原則午前の1クールで運営し、約100名の患者さまが血液透析を受けています。

透析センターの診療は、令和5年1月より泌尿器科の藤井央法医長に替わり着任した平儀野剛医長、山口充浩医師と協働して診療を行っており、個々の病態に応じた治療ができるように心がけています。入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法に対しては、透析センター並びに救命センターにて対応しています。

また総合病院の使命として、他の透析施設からの各科に入院となる患者さまの受け入れを行っています。近年は整形外科・脳疾患はもとより、心・下肢血管のインターベンション治療目的の循環器疾患の患者さまが増加しています。

腎代替療法選択外来では、腎移植についても積極的に説明するよう心がけ、対象者を大学病院に紹介しています。また、末期腎不全の腎代替療法（腎移植、血液透析、腹膜透析）についても、個別に説明を行っています。

CKD（慢性腎臓病）の治療については全身疾患として診るよう心がけており、予防、早期治療のためには、患者さまやかかりつけ医への啓蒙活動も腎臓内科の重要な責務と考え、病診連携に力を入れています。紹介の患者さまには、個別に腎臓病専門のスタッフによる栄養指導を受けていただいています。

在宅治療である CAPD（腹膜透析）の管理も行っています。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、EBM（Evidence-Based Medicine：根拠に基づく医療）に基づいて専門的治療を行うようにしています。

遺伝性疾患である ADPKD（多発性嚢胞腎）も新たな薬物治療（バズプレッシン V2 受容体拮抗薬：トルバプタン）に取り組んでおり、腎嚢胞の増大を抑制し、腎機能障害の進行抑制と合併症対策に取り組んでいます。

慢性腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、心不全、糖尿病の治療は、専門医との連携を図りながら、特に食事治療の重要性を考え、栄養指導、自己管理指導を保存期より積極的に行っており、患者さまだけでなく紹介先の先生方の期待に応えるよう努めています。

【入院患者統計】（令和 4 年度）

病 名	慢性腎不全	30
	急性腎不全	2
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	7
	電解質異常	5
	尿路感染症	1
	心不全	8
	糖尿病・糖尿病腎症	5
	シャントトラブル	13
	呼吸器感染症	3
	その他	12
	総症例数	86
治 療	内シャント造設術	30
	CAPD 手術	2
	PTA（経皮的血管造成術）*	83
	経皮的腎生検	9
	血漿交換療法・血液吸着療法	14
	血球成分除去療法	66
	腹水濾過濃縮再静注法	17
	持続的血液透析濾過	92
	総件数	313

*…透析センターにおける件数

【業績集】

<学会・研修会>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2022.7.1-3	看護師の介護保険制度の理解の重要性と今後の展望	吉松幸代 ³⁾	松本和美 ³⁾ 市川智春 ³⁾ 行壽元子 ³⁾ 金子佳子 ⁵⁾ 坂井尚二 ¹⁾	第67回日本透析医学会学術集会・総会	パシフィコ横浜
2022.7.1-3	COVID-19 感染患者への腎代替療法の取り組み	三田井盛将 ⁴⁾	藤田忍 ⁴⁾ 若尾泰子 ⁴⁾ 前田友美 ⁴⁾ 佐々木毅 ⁴⁾ 原宏二 ²⁾ * 藤井央法 ²⁾ 坂井尚二 ¹⁾	第67回日本透析医学会学術集会・総会	パシフィコ横浜

腎臓内科¹⁾ 泌尿器科²⁾ 看護部³⁾ 臨床工学部⁴⁾ 地域連携部⁵⁾ *...令和3年度在籍